

岩崎純一(岩崎純一学術研究所 所長)の尋ね人情報

サイトに掲載: 2024年1月27日 更新: 2024年1月29日

以下の方を探しています。男性、1981年当時は川崎病院、岡山市

ご本人様、ご親族様、ご友人様、またはお心当たりの方、ぜひご連絡いただければ幸いです。
ぜひよろしくお願いたします。(返礼あり)

尋ね人情報

(尋ね人管理 ID:19820424-1: 当該男性のご年齢を考え、ネットで当「尋ね人情報」を公表)

(生年不明、男性。現在おそらく、60歳代。1981年当時、川崎医科大学附属川崎病院(岡山市北区中山下)にインターンまたは研修医として勤務。)

私・岩崎純一の胎児期において、胎児死亡の誤診から岩崎の命を救って下さったこの方(あなた)へ、何らかの形でお礼を考えていますが、情報不足のため実現できないでいます。あなたの機転がなければ、私の人生は存在していませんでした。衷心より深く御礼申し上げます。お差し支え無ければ、恩返しを実現したく思います。

●現在分かっている情報

▼1981(昭和56)年当時、川崎医科大学附属川崎病院(岡山県岡山市北区中山下)にインターンまたは研修医として勤務。(米国のようなインターンではなく、1969年のインターン制度廃止後の、通称としてのインターンや研修医と思われる。)

(現・川崎医科大学総合医療センター。同系列の川崎医科大学附属病院(岡山県倉敷市松島)とは異なる。)

▼他の医師、看護婦(現・看護師)、助産婦(現・助産師)などが、胎児死亡と判断し(おそらく心音停止の判断による)、翌日の分娩誘発による流産・死産を決定した日の夜間に、医師らの判断に疑念を持っていた20歳代の当該インターンの方が、医師らに内緒でその旨を私の母に報告し、母胎を再検査し、私の心音が確認されたことで、妊娠継続が可能となった。

▼詳細不明だが、仮に医師らの誤診でなかったと仮定すると、最短でも一日程度は胎児死亡(心拍動停止、胎動停止)状態の事実があり、再び胎児が蘇生したことになる。これは極めて考えにくく、本当ならば奇跡的であるが、しかしいずれの場合も、インターンの方の判断の的確さが変わるものではない。

▼本件は、保育士である母との会話において知ることとなった。

▼これらの経緯は、インターンの方の動きが正規の手続きを踏んだものでなかったためか、母子手帳にも一切記載なし(「妊娠中の経過」ページ)。また、病院、医師、分娩取扱(予定)者(医師、助産婦)の氏名・捺印および備考欄はあるが、インターン・研修医の氏名・捺印および備考欄はないなど、医療従事者間の法令上かつ職場内の立場の違いにもよると思われる。従って、病院が問合せに応じることは不可能である。

▼岩崎純一の胎児期の情報

初めての胎動:1981年11月22日(「純一」の命名は早くに行われており、当該男性もご存じの可能性あり)

出産予定日:1982年4月27日

誕生日:1982年4月24日

(※ この経緯の公表は、当該病院および医師・医療従事者各位への批判を意図したものではありません。産後の母子検診などにおける当該病院の対応は適切なものであったことを付記します。)

作成: 岩崎 純一、岩崎純一学術研究所 (ウェブサイト:<https://iwasakijunichi.net/>)

ご連絡先、担当: 所長: 岩崎 純一 (メールアドレス:iwasaki-j@iwasakijunichi.net)

研究所 (メールアドレス:office@iwasakijunichi.net)

統括室(諸法令関連の処理業務、人探し担当): 岩崎 純一、虫明 彩